

継続研究の進捗

JICA草の根技術協力事業「伝統産業復興による農産物加工技術振興プロジェクト」(2010年12月より3年間)

2010年12月の開始から1年半が経過し、カンボジア国タケオ州では、伝統的な米蒸留酒の製造方法の普及が進んでいます。タケオ州に配置されている技術普及員3名は、約1年近い時間をかけて、日本人の醸造専門家から伝統的な米蒸留酒の製造方法や農家への普及方法についてOJT(On the Job Training)にて集中的に学びました。今では、酒造農家への指導方法も板についてきました。また、プロジェクトの品質基準を満たした米蒸留酒を用いて既に商品化した「スラ・タケオ」に続いて、タマリンドを用いた果実酒「タマリンド・リキュール」を商品化しました。世界遺産アンコールワットがあるシェムリアップと首都プノンペン市内のスーパーマーケット、ホテル、レストラン、土産店等での販売に加えて、2012年4月からは、シェムリアップ空港での販売に至っています。カンボジアを訪ねる際には、ぜひお試しください。(伊藤香純)



スラ・タケオを原料とした果実酒タマリンド・リキュール

科研費「ケニア西部の土壤荒廃地域における地域環境の保全と地域文化に関する学際的研究」(2008~2012)

ケニアで広がる土壤侵食—対策先進地の技術に学ぶ

ケニア西部ビクトリア湖岸で起こっている土壤侵食は、調査開始以来5年間、毎年少しずつ拡大してきていて、家の移転を余儀なくされるなど住民の生活にも影響が及んできています。この土壤は、アルカリ性で交換性Na含量が高く、水分含量が高くなると分散しやすい性質の強いことが分かりました。普段は乾燥していますが、降雨のときは鉄砲水のように流れる流去水が土地の勾配に沿って集まり土壤の侵食が進むようです。同じケニアで土壤侵食防止対策を採っている先進地域のマチャコス地方では、等高線に沿って土を掘り上げて作る高さのある土手やそこにパパイヤや牧草のネピアグラスを植えて補強し、対策防止としていますので、この技術がかつて遊牧を生業としていたビクトリア湖岸のルオ族の人たちに受け入れられるか試してみようとしています。(浅沼修一)



ケニア・マチャコス：Mr. Joseph Mutesiaの畑(2012.5.14)

オープンセミナー(2011年12月~2012年3月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
第7回	12月7日	アフリカ・サブサハラ地域における米生産倍増のためのネリカ米(NERICA)栽培生態研究	ジョン・オニャンゴ	マセノ大学理学部長(ケニア)/名古屋大学大学院生命農学研究科JSPS外国人招へい研究員
第8回	12月13日	アフリカの食料安全保障と持続的発展のための低利用在来野菜と果物の戦略的再評価	メアリー・オニャンゴ	ジョモ・ケニヤッタ農工大学農学部・教授(ケニア)
第9回	2012年1月16日	研究者の皆さん!!タンザニアの稲作農家があなたの活躍を待ち望んでいます! —タンザニアにおける稲作技術改善の課題—	関谷 信人	JICA専門家
第10回	3月9日	ケニアの土地と土壤資源および持続的農業生産のための管理	ダルマス・シグンガ	マセノ大学理学部准教授(ケニア)
		サブサハラアフリカにおける都市化と女性の貧困：その原因と結果	オモンディ・アハオ	マセノ大学人文・社会学部講師(ケニア)

センター移転のお知らせ

名古屋大学農学国際教育協力研究センターは、2012年3月29日に生命農学研究科A館東研究棟6階に移転しましたのでお知らせします。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。(電話番号、FAXの変更はございません)

<http://icca.e.nagoya-u.ac.jp/index.html>